

迎手



目次

第一話 せんじゆう 潜入、地底アパート！ 10

こぼれ話●とつげき 突撃、地底大浴場！ 96

第二話 そうぐう 遭遇、びょうりゆう 美少女と恐竜！ 106

こぼれ話●はいかい 徘徊、いどら 真夜中の移動パン屋さん！ 178

第三話 かくせい 覚醒！ さいやく 災厄の雲 192

登場人物紹介



マキシマム ベータセブテーン
MAXIMUM-β17

一葉の隣人。強そうなクールイケメン。



かがみ かおる
加賀美 薫

一葉のフロアの住人。美少女大学生…?



メフィストフェレス

アパートの大家。自称悪魔。
1階の雑貨屋の店長でもある。



かつらぎ ふたば
葛城二葉

一葉の妹。ひきこもりになりそうな兄を心配している。



かつらぎ かずは
葛城一葉

主人公。ネットゲームが大好きな、気のやさしい大学生。
一人暮らしを始めることに。

ねえ、大旦那。

人間は相変わらず、理性とやらを持つているのに、欲望の赴くまま、獣のように振舞っている。最近では、あなたの存在を否定する輩も少なくないとか。

ひどいと思いませんか？

あなたの存在が己を救う手立てになるというのに、それすらも拒むという。私には、全く理解できませんね。

へえ、それでも、人は向上をするものとおっしゃるのですか。常に、天上を目指すというのですか。

あア、あの方がそうでしたね。私を捨てたあの方が。

あの方は例外でしょう。

普通ならば、目的を達したら墮落してしまうと思うのですがね。

そう、やつらは、常に墓穴を掘っているのです。いずれ、自らの手でコキュートスに通じる穴をあけますよ。

まア、今度こそ実証してやりましょう。

舞台は、あの、信ずるものが混乱している国がいい。八百万の神と言っていますが、一体、何に祈っているんだか。

大旦那はそこで見物をしてくださいいな。

そうそう。SNSのアカウントは持っています？ アカウントを交換すれば、私は地上に居ながらにして、大旦那とお話出来るんですがね。

ああ、実名登録はしたくない？ いえいえ。ハンドルネームでも構わないSNSなら、たくさんありますよ。ほら、タブレット端末を出して。おっと、ガラケーじゃアプリをダウンロード出来ませんね。残念。

いえいえ、物持ちがいいって素敵なことではありませんか。決して、時代遅れと申し上げているわけでは。

まあ、いいでしょう。全知全能の大旦那にはSNSなんて必要ないでしょうし。では、気を取り直しまして――。

このメフィストフレスメが、楽しい見世物をお目にかかけましょう。



第一話 潜入、地底アパート！

実家を追い出された。

「うちでネットゲームばかりやっているのが災いしたのか、「大学生になったんだから一人暮らしをしろ」と言われてしまった。

「可愛くてしっかり者の妹が、物件を探してくれていた。さすがに、契約は親がやったらしいけど。」

そのアパートは、『馬鐘荘』という。名前からして昭和のにおいがプンプンしていた。

「お兄ちゃんはネットゲームしかやらないから三畳で充分だろうけど、情けをかけて六畳の部屋を探しておいてあげたわ」と言って、間取り図とアパートまでの地図をくれた。「お兄ちゃんは磨けば光るタイプなんだから、東京でバイトでもやって、可愛い彼女も見つけなさい」と余計なひと言まで添えて。

しかし、ボストンバッグに入る程度の荷物を抱えた僕は、現地の池袋で途方に暮れていた。

七月。蟬の音がジイジイと煩い。アスファルトも焼けた鉄板のように熱い。風なんて熱風だ。滴る汗を拭いながら、契約の書類を見やる。

僕の部屋は二階らしい。

しかし、どう見ても、該当する住所にあるのは、平屋の建物だった。

雑貨屋『迎手』。

腹が立つほどに白い雲の下にたたずむ平屋の建物には、そんな看板が堂々と掲げられていた。イモリだかヤモリだかトカゲだかの装飾が施されていて、どこことなく胡散臭い。

場所は西池袋。路地裏には飲み屋が密集し、夜になると怖いおにいさんが闊歩する場所だ。僕はこの近くの大学に通っているの、帰りが遅くなった日には震えながら駅を目指していた。埼玉の実家に向かう埼京線に乗るまでは、油断が出来ない。

目の前の建物は、ビルの隙間に挟まって小ぢんまりとしているけどシッカリとした



煉瓦造りで、どことなく中世ヨーロッパを連想させる。

「なんだっけ。今流行りの、北欧風？」

いや、なんか違う気がする。

「それにしても、住所はここなんだけどなあ」

タブレット端末で確認する。文明の利器たるGPS様も、ここで合っていると
言っている。

「まあ、店の人に聞いてみるか」

小ぢんまりとした庭には、めいっばいガーデニングがなされていた。玄関につな
がる径を除いて、緑一色だ。ハーブっぽい植物が畑にびっしりと植えられていたり、
毒々しい色の花が風に妖しく揺れていたりにしている。

「大丈夫かな、ここ……」

その先で、真っ黒な木製の扉が僕を迎える。扉にはこう書かれていた。

『この扉を開ける者は一切の希望を捨てよ』と。

「うっわ、なんだこれ」

『神と和解せよ』と同じ、ごつい書体で書かれている。その隣には、『安眠香入荷し

ました』と、丸いポップな文字が書かれた張り紙があった。ご丁寧に、ゆるい羊のイ
ラストなんか描かれている。

ひどい温度差だ。というか、安眠香とやらを購入するのに一切の希望を捨てないと
いけないなんて、ハードルが高すぎる。

「いや、でも、そういうコンセプトの店なのかもしれない。なんとなく魔法っぽい雰
囲気がするし、魔女の家を模した雑貨屋さんとか……」

あるある。池袋ならば、きつとある。何せ、休日にコスプレをした人達が歩いてい
たり、執事に扮したウェイターが接客をする執事喫茶なるものがあつたりする土地だ。
魔女雑貨店なんていうものがあつてもおかしくない。

僕は自分にそう言い聞かせて、扉のノブをひねった。もちろん、希望は捨てていな
い。

この先にはきつと、魔女っぽい雰囲気醸し出しつつもファンシーな雑貨屋さんが
待っているはずだ。安眠香というのも、アロマグッツの類に違いない。現に、張り紙
は女の子が書きそうな文字じゃないか。ちょっと変わり者だけど愛らしい店員さんが
いるに違いない。

著 蒼月海里 (あおつき・かいり)

宮城県仙台生まれ、千葉県育ち。日本大学理工学部卒業。元書店員の小説家。著書に「幽落町おばけ駄菓子屋」シリーズ、「華舞鬼町おばけ写真館」シリーズ(以上、角川ホラー文庫)、「幻想古書店で珈琲を」シリーズ、『稲荷書店きつね堂』(以上、ハルキ文庫)、「深海カフェ 海底二万哩」シリーズ、(角川文庫)、「夜と会う。」シリーズ(新潮文庫 nex)、「水晶庭園の少年たち」シリーズ(集英社文庫)など多数ある。

イラスト serori

装丁原案 西村弘美

カバーデザイン 大澤葉(ポプラ社デザイン室) 本文デザイン 高橋美帆子(ポプラ社デザイン室)

特装版 蒼月海里の「地底アパート」シリーズ1 地底アパート入居者募集中!

2020年4月 第1刷

著 蒼月海里
発行者 千葉均
編集 門田奈穂子
発行所 株式会社ポプラ社
〒102-8519 東京都千代田区麹町4-2-6
電話 (編集) 03-5877-8108
(営業) 03-5877-8109
ホームページ www.poplar.co.jp
印刷・製本 中央精版印刷株式会社

© 蒼月海里 2020 Printed in Japan
ISBN978-4-591-16560-7 N.D.C.913/270p/20cm

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。小社宛にご連絡ください。
電話 0120-666-553 受付時間は月～金曜日、9:00～17:00(祝日・休日は除く)

読者の皆さまからのお便りをお待ちしております。
いただいたお便りは、著者にお渡しいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。

本書は2016年7月にポプラ社より刊行された、『地底アパート入居者募集中』(ポプラ文庫ピュアフル)を特装版にしたものです。